

2017年成城大学共通教育研究センターは 開設10周年を迎えます。

共通教育研究センターは全学共通教育のカリキュラム開発、管轄、運営、等を行っています。

成城大学は、個性を尊重し、創造性に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきました。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入しています。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりです。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

共通教育研究センターの教員が中心となって刊行した書籍

初年次教育参考書



東谷護
『大学での学び方
—「思考」のレッスン—』
(勤草書房、2007年、
ISBN 978-4-326-65324-9)

ICT テキスト



阿部勘一、noa 出版
『学生のための
アカデミック情報リテラシー』
(noa 出版、2013年、
ISBN 978-4-9905148-5-3)

論集(10周年記念事業第1弾)



山本敦久(編)
『身体と教養—身体と向き合う
アクティブ・ラーニングの探求』
(ナカニシヤ出版、2016年、
ISBN 978-4-7795-1060-1)

2017年成城学園は 創立100周年を迎えます

1917年(大正6年)、澤柳政太郎が日本の初等教育改造を志して創立したのが成城小学校でした。成城小学校は、画一的教育から脱却し、子どもの関心や感動を根幹とした、自由な教育体験の創造を目指した大正自由教育運動のなかでも中心的な役割を果たしました。その後、幼稚園から大学・大学院まで擁する成城学園へと発展し、2017年に創立100周年を迎えます。次の100年にむけた成城教育として「国際教育」「情操・教養教育」「理数系教育」の充実を掲げています。



会場へのアクセス



小田急線「成城学園前」駅より、北口を出て徒歩5分
※小田急線「急行」は停車しますが、「快速急行」は通過となりますので注意してご乗車ください。

問合せ先

成城大学共通教育研究センター

TEL 03-3482-9556

<http://www.seijo.ac.jp/education/support/ge-center/>

E-mail: kyotsu@seijo.ac.jp

※参加費無料

内容、日程等が予告なく変更されることがあります。

いま、教養教育とは何か

成城大学共通 教育研究センター 開設10周年 記念事業



成城大学共通教育研究センター

記念事業のねらい

日本の高等教育の変化は、この20年余りで国立大学の教養部解体、大学院重点化、独立行政法人化といった制度にかかわるものに見られました。同様に、高等教育の「現場」に集う学生にも変化は顕著に見られました。2000年代後半には、大学への進学率は55パーセントを超えたにもとどまらず、内実は、ゆとり教育を背景とした学生の学力低下など、これまでの教育では、立ちゆかなくなってきたのが現状と言えましょう。それゆえに、教育の質保証が大学に求められ、日本の高等教育の歴史のなかでは、これまでにないほどの教育改革が多くの大学において、推進されつつあるのは周知の通りです。

こうした状況のなか、成城大学共通教育研究センターでは成城大学の母体である成城学園が創立した大正時代の自由教育や成城大学の特色の一つであるリベラルアーツを重視した教育の伝統を2007年の開設以来、強く意識して、初年次教育、教養教育、ICT、スポーツ・ウエルネスに関わるカリキュラム開発、管轄、運営を行ってきました。成城大学の自由な学風のなかで学生たちは、幅広く教養を身につけ、卒業後は個性豊かな市民として社会で活躍しております。

このような伝統は、たとえば初年次教育では「問うことの重要性を前面に押し出した」科目設計を施した科目(WRD)の設置、

教養教育では学生が日々の生活を営んでいる「現代・日本(イマ・ココ)から俯瞰する教養を幅広く身につける」ことを目的としてデザインされた系列科目と成城大学独自の内容で構成された成城学の設置、スポーツ・ウエルネス科目では、それまでの体育実技科目からスポーツ・スタディーズ、ウエルネス・スタディーズ、身体表現・スタディーズといった今日的な内容への再編、と活かされております。しかしながら、現状に甘んじることなく、よりよい教育を学生に提供していくことが共通教育研究センターには求められております。

共通教育研究センターでは、開設10周年を契機として、次の10年に向けて、「表面的な教育改革にとどまってしまうことなく、各学問領域に蓄積された豊富な専門知を今日的な教育に活かすことで、教育の質保証を高める」ことが重要な課題であり、さらに「共通教育に関連する教育実践も含めた研究を進め、その成果を広く学内外に発信していく」ことが必須だと考えます。

今回、これらの課題を高次元で達成する一助として、一連の記念事業を企画しました。ぜひとも会場に足をお運びいただき、議論の輪に加わっていただきたいと思ます。また、これらの成果報告の刊行物を発信することによって、クリティカルな議論を展開していただく機会を提供したいと思ます。

1. 講演シリーズ「いま、教養教育を問う」(全5回)

教養教育に関わってきた研究者に、自身の教育実践と教養教育への考えを講演していただくことで、近年の教養教育のあり方を問う様々な議論に一石を投じたいと思います。

本講演シリーズでは、外国語(英語)教育、人文科学、社会科学、自然科学の気鋭の専門家をお招きしますので、すべての回が終わった時には、参加者のみなさんそれぞれが、これからの教養教育を多角的な視点から捉えているに違いありません。なお、大学で教養教育科目を教える、ということについては、広く市民へ専門知を発信するという意味にまで広く解釈しております。つまり「教養」の意を大学教育に据えながらも、大学だけに閉じないでいきたいという願いが込められています。

第1回 2016年10月15日(土)	「専門家」という甘えの構造 講演：佐藤良明(放送大学教授、東京大学名誉教授) 司会：山本敦久(成城大学准教授)
第2回 2017年3月4日(土)	教養教育をどうとらえるかー歴史的視点から考えるー 講演：森利枝(大学改革支援・学位授与機構教授) 司会：山本敦久(成城大学准教授)
第3回 2017年5月13日(土)	狭い音楽観からの解放 講演：小島美子(国立歴史民俗博物館名誉教授) 討論者：塚原康子(東京芸術大学教授) 司会：東谷護(成城大学教授)
第4回 2017年7月15日(土)	メディア報道を読み解く技法 講演：伊藤守(早稲田大学教授) 討論者：田中東子(大妻女子大学准教授) 司会：東谷護(成城大学教授)
第5回 2017年10月7日(土)	科学リテラシーはどこまで必要か 講演：標葉靖子(東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 特任講師) 討論者：山本敦久(成城大学准教授) 司会：東谷護(成城大学教授)

2. ワークショップ「表現教育の可能性」(全2回)

2010年度より、共通教育研究センター独自のFD活動として、「表現教育の可能性」という統一テーマの下、ワークショップを開催しております。初年次教育科目「WRD」のなかでも、「書く」ことをどのように教えていくのかに関して、スキル重視に傾かず、ユニークな教育実践をされている、あるいは視野の広い研究を推し進めている方をお招きしてきました。

2016年度には、北米の大学において、日本語教育を含む日本学の学問的系譜と課題の提示、さらに事例として、世界有数の大学であるダートマスにおいて、第二言語として日本語をいかに教え、効果を出してきたのかについて、体系的なカリキュラムをはじめとした教育実践の紹介と、日本の初年次教育の論文指導への接合を示唆していただきます。

2017年度には、これまでのFDワークショップの趣旨を広く解釈し、デジタル・ネイティブ世代が新たな表現形態を創出する「クリエイティヴベーシック」の実践を手がかりに、身体と言語表現をテーマに講演をしていただき、言語表現の新たな試みを議論する場を共有したいと思ます。

2016年度(通算第7回) 2017年1月28日(土)	北米の大学における日本学の学問的系譜と課題ーダートマス大学での実践から考えるー 講師：ジェームス・ドーシー(ダートマス大学教授)
2017年度(通算第8回) 2018年3月開催予定	身体と言語をどう結びつけるかークリエイティヴベーシックの実践から考えるー 講師：谷美奈(帝塚山大学准教授) *詳細が決まり次第、10周年記念事業ホームページにて公開します。

3. シンポジウム

「文科系大学におけるICT教育を再考するーアクティブ・ラーニングの視点からー」
(2018年度開催予定)

ICTスキルに関する教育や授業実践をテーマに、専門領域とICT教育の連携、授業デザインの可能性、等の内容についてシンポジウムを行います。2018年度に開催予定です。

コーディネーター：阿部勘一(成城大学教授)

*詳細が決まり次第、10周年記念事業ホームページにて公開します。

4. 出版企画

上記の講演シリーズ、ワークショップ、シンポジウムの成果報告として、教養教育、初年次教育、ICT、スポーツ・ウエルネスに関わる書籍の刊行を2018年度に企画しています。

*詳細が決まり次第、10周年記念事業ホームページにて公開します。